

三上智恵監督最新作

「標的の村」（戦場の止み）



# 標的の島

風かじかたか



この些が、最後の希望

辺野古、高江、宮古、石垣。なぜ闘うのか？ 壊れかけたこの国の、自由と平和をめぐる「最前線」。



監督・ナレーション●三上智恵  
プロデューサー●橋本佳子、木下紫貴  
撮影監督●平田守  
編集●砂川敬志  
監督補●桃原英樹  
音楽プロデューサー●上地正昭  
協力●沖縄タイムス社、琉球新報社  
製作協力●沖縄記録映画製作を応援する会  
製作●DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵  
配給●東風  
2017年  
日本  
DCP・BD  
119分  
ドキュメンタリー

「標的の島」とは、  
沖縄のことではない。  
それは今

あなたが暮らす  
日本列島のこと。

2016年夏、米軍属女性暴行  
殺人事件の被害者を追悼する県民  
大会で福嶺進名護市長は言った。  
「我々は、また命を救う『風かたか』  
になれなかった。」「風かたか」とは  
風よけ、防波堤のことだ。

沖縄県民の8割の反対を黙殺し  
た辺野古の新基地建設、全国から  
1000人の機動隊を投入して高  
江で強行されるオスプレイのヘリパ  
ッド建設。現場では多くの負傷者・  
逮捕者を出しながら、激しい抵抗  
が続く。さらに宮古島、石垣島で  
ミサイル基地建設と自衛隊配備が  
進行していた。なぜ今、先島諸島  
を軍事要塞化するのか？ それは  
日本列島と南西諸島を防波堤とし  
て中国を軍事的に封じ込めるアメ  
リカの戦略「エアシーバトル構想」の  
一環であり、日本を守るためでは  
ない。基地があれば標的になる、  
軍隊は市民の命を守らない——そ  
れは沖縄戦で歴史が証明したこと  
だ。だからこそ、この抵抗は止ま  
ない。映画は、伝えきれない現実  
を伝えるものだから。



歌い、踊り、  
咲き誇る文化の力。  
「最前線」に  
集まる人々、  
新たな希望。

大学で民俗学も講じる三上智恵  
監督が描くのは、激しい抵抗や衝  
突だけではない。エイサー、バーン  
トウ、アンガマ、豊年祭。先祖から  
子孫へと連なる太い命の幹、権力  
を笑い飛ばし、豊穣に歡喜する農  
民の誇りと反骨精神。島々の自然  
と歴史が育んだ豊かな文化がスク  
リーンに咲き乱れる。そして、県  
民大会で古謝美佐子が歌う「童  
神」、辺野古のゲート前でかき鳴ら  
される三線の音色。高江のテント  
で「兵士Aくんの歌」を歌う七尾  
旅人のまわりには全国から駆けつ  
けた若者たちの姿があった。この一  
年で安全保障政策を大転換したこ  
の国で、平和と民主主義を守る闘  
いの「最前線」はどこか？ それに  
気づいた人々が、今、沖縄に集まっ  
ているのだ。

2017年10月21日(土)

① 10:00 ② 12:30 ③ 14:50

上映協力券 ◆大人 ¥1,000 (当日 ¥1,200)  
◆高・中・小 ¥500 (当日のみ)

天神山文化プラザホール

岡山市北区天神町 8-54 ☎086-226-5005 ※会場には駐車場がありません

このチラシを持参の方は前売 1000 円で  
御観賞いただけます (3 名まで有効)

主催/「標的の島」岡山上映実行委員会 問い合わせ先/自治労連岡山県本部 ☎086-223-0911・岡山県映画普及センター ☎086-207-2128